

マーシャル概要

マーシャル諸島は太平洋の中心に位置し、29 の環礁と 5 つの独立した島々からなる熱帯の楽園です。この遠洋の群島は、透き通るようなターコイズ色のラグーン、色鮮やかなサンゴ礁、豊かな海洋生物が織りなす、太平洋の美しさそのものです。ミクロネシアを起源とする深い文化的伝統を持つマーシャル諸島は、現代の課題に向き合いながらも、伝統を大切に誇る誇り高い国です。首都マジュロは、政治と経済の中心地として活気に満ちています。またこの国は世界の中で独自の地位を築いています。米国と自由連合盟約（コンパクト）を締結し、緊密なパートナーシップを維持するとともに、特に海面上昇という切実な課題に対して環境の持続可能性を訴える取り組みも積極的に行っています。国土の面積は小さいものの、しなやかでたくましい人々と、息をのむような景観が調和するマーシャル諸島は、世界でも訪れる人々の記憶に残る特別な場所です。



©Expo 2025

COMMONS-D PAVILION

MARSHALL ISLANDS PAVILION

マーシャル館



私たちが受け継いだもの、
そして未来社会に残したいもの

展示コンセプト

2025 年大阪・関西万博のマーシャル館では、マーシャル諸島の活気あふれる文化、しなやかでたくましい精神、環境の持続可能性への取り組みを生き生きと紹介しています。展示では、海と驚異的な自然との深い結びつきを反映し、気候変動と海面上昇という課題にマーシャル諸島が挑む先進的な取り組みにスポットライトを当てています。没入型の展示、アートインスタレーション、双方向型の体験を通じて、訪れた人々は太平洋の楽園を旅しているような感覚を味わい、この島国の豊かな伝統、持続可能な習慣、持続可能な未来へのビジョンについて深く知ることができます。また、海洋安全、再生可能エネルギー、国際協力に焦点を当てたマーシャル館は、マーシャル諸島の美しさを称えるだけでなく、未来の世代のために環境を保護する活動を促すインスピレーションも与える場所です。



マーシャル語の重要な役割

マーシャル語は、マーシャル諸島の人々にとって文化的アイデンティティの中心となる重要な言語であり、英語と並んでマーシャル諸島共和国の 2 つの公用語のうちの 1 つに指定されています。この言語はオーストロネシア語族、その中でもマレー・ポリネシア語派に属し、他のミクロネシア諸語と密接な関係があります。マーシャル語には主に、西部の島

で話される「ラリック」と、東部の島で話される「ラタック」という 2 つの方言があります。この 2 つの方言は相互に理解可能ですが、発音、語彙、一部の文法構造に違いがあります。米国との政治的な結び付きから、マーシャル諸島では英語が広く使用されていますが、特に地方部ではマーシャル語が日常生活の主要言語として使われています。この言語を保護し活用を促進するため、学校でマーシャル語を教え、メディアや文化的習慣での使用を維持する取り組みが進行中です。マーシャル語は、伝統的な知識、習慣、口承文化の保護にも欠かせない役割を果たしています。世代を超えて受け継がれてきた物語、歌、伝説は、マーシャル語で語り継がれることが多いため、この言語は島々の文化的基盤を支える重要な存在となっています。また、伝統的な航海術や、星、海、環境に関する知識とも強く結びついています。

マーシャルの社会と文化

マーシャル諸島の社会は母方の血筋を重んじ、家系や土地の権利は母方を通じて継承されます。土地は、生活の糧であると同時に文化的アイデンティティの核となる存在です。多くの場合、親戚同士で一緒に暮らし、責任を分担し、共同生活を営んでいきます。伝統芸術としては、パンダナスの葉を編んで作る複雑な模様のマット、バスケット、手工芸品があり、現在も日常生活に欠かせない文化の象徴となっています。物語、歌、踊りは、口承文化の保護と祖先の知恵の伝承に非常に重要な役割を果たしています。19 世紀に宣教師によって伝えられたキリスト教は、伝統的な信仰とともに広く根付いています。年長者への敬意、家族の強い絆、ホスピタリティはマーシャル文化の根幹をなす価値観です。マーシャルの人々は、現代の影響や気候変動などの課題に直面しながらも、現代の生活に適応しつつ自分たちの伝統を尊重し、文化的慣習を守り続けていきます。

伝統的な航海術と航海

マーシャル諸島の伝統的な航海術と航海は、マーシャルの

文化にとって非常に重要であり、素晴らしい創意工夫と海との深い結びつきを体現しています。何世紀もの間、マーシャル諸島の人々は卓越した船乗りとして、アウトリガーカヌーと独自の航海術を駆使し、環礁間を長い距離にわたって航海してきました。その航海技術の中核となるのが、「スティック・チャート」と呼ばれる複雑な地図です。これはココヤシの葉柄と貝殻で作られ、海のうねり、波のパターン、島の位置を示しています。この海図は航海中に使うのではなく、船乗りたちが海の地形を記憶するための教材になります。マーシャルの船乗りたちは、波の動きや海流、星、風、鳥の動きなど、自然環境を緻密に把握しながら航路を組み立てます。島々から水平線を超えて反射するうねりなど海面のわずかな変化を察知する能力は、彼らの卓越した能力の証です。「ワ」と呼ばれるアウトリガーカヌーは、パンノキやパンダーヌスなど地元の材料を使って精巧に作られ、外洋でのスピード、安定性、効率性を追求した設計になっています。この船は輸送、漁業、点在する環礁間のつながりの維持に欠かせない存在です。

マーシャル諸島への日本の影響

日本の影響はマーシャル諸島の歴史において欠かすことのできない要素であり、日本は島の文化と歴史の織りなす物語に大きく貢献すると同時に、発展と苦難が入り混じった遺産をもたらしました。マーシャル諸島における日本統治時代（1914 年～ 1944 年）は、インフラ、経済、社会が形成された、マーシャル諸島の歴史において重要な時期となっています。第一次世界大戦でドイツが敗北した後、日本は国際連盟の委任統治のもとでマーシャル諸島を治めることになりました。この地域は、日本の南洋委任統治領の一部として、経済開発や行政運営が進められましたが、一方では軍事拠点としても利用されました。1944 年の米国によるマーシャル諸島占領で日本統治時代には終止符が打たれましたが、その影響は様々な形で残っています。マーシャル語に取り入れられた日本語の外来語、軍事施設の遺構など日本が建設した物理的インフラ、当時の記憶、口承による伝統などは、マーシャル諸島が辿ってきた複雑な時代を象徴するものです。